

## 概要

○県産の酒造好適米（「吟の夢」等）は1等米比率が低く、酒造適性米は県外産に比べ価格が高いため、酒造メーカーでの利用が少ない。また、低価格の加工用米は需要が高いものの、生産者側でのメリットが低く、産地への普及拡大は進んでいない。

○酒造好適米の高品質生産、酒造適性米・加工用米の安定供給を行い、土佐酒の販売拡大につなげ、現行で24%程度にとどまる県産酒米の使用割合を50%以上とすることを目標として、酒米の生産拡大と産地の活性化を図る。

## 具体的な成果

- 1 県産酒造好適米のシェア向上：  
18.9%（H26年度）⇒36.3%（R6年度）
- 2 県産酒造好適米における主要品種「吟の夢」の1等米以上比率向上：  
17.0%（H28年度）⇒40.6%（R6年度）
- 3 県内酒造好適米の作付面積増加：  
34ha（H26年度）⇒104ha（R6年度）
- 4 酒造好適米新品種「土佐麗」作付面積：  
0.4ha（H30年度）⇒22.5ha（R6年度）

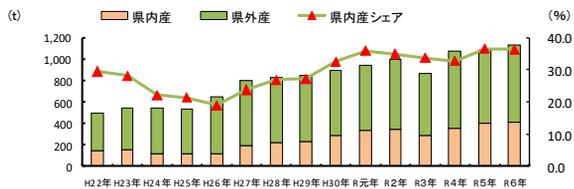


図 酒造好適米の県内産シェア推移

## 普及指導員の活動

平成28年度

### ■土佐酒振興プラットフォームの設立

平成28年度  
～令和6年度

### ■酒造好適米、酒造適性米の高品質安定生産の支援

- 高品質安定生産に向けた技術の検討・普及
  - ・県内各地で、酒米実証ほを設置・各地域での栽培技術指導を実施
  - ・県内全域の生産者を対象とした現地検討会を開催
- 酒米品質のデータ解析と生産者へのフィードバック
  - ・酒米品評会の実施を通じてのサンプル収集・データのフィードバック
- 実需者との交流の促進
  - ・県域現地検討会、酒米品評会開催を通じての生産者と実需者（酒造メーカー等）の「絆」作り

平成30年度  
～令和6年度

### ■早期栽培用の酒造好適米新品種「土佐麗」奨励品種採用⇒生産拡大

- ・県内全域の生産者を対象とした現地検討会を開催



## 普及指導員だからできたこと

- ・県の農業分野だけでなく、関係する幅広い部署（輸出担当課、工業技術センター等）と連携し、酒米に関連する関係機関・団体での意思疎通の場を設けることができた。
- ・県産酒米に求められる形質と、県内の各産地の酒米の現状に関するデータ解析結果をもとに、普及組織・試験研究機関と連携して、栽培技術改善のポイントをスムーズに生産者に提案することができた。

## 酒米の振興と安定生産に向けた支援

活動期間：平成 28 年度～

### 1. 取組の背景

県産の酒造好適米（「吟の夢」等）は 1 等米比率が低く、酒造適性米は県外産に比べ価格が高いため、酒造メーカーでの利用が少ない。また、低価格の加工用米は需要が高いものの、生産者側でのメリットが低く、産地への普及拡大は進んでない。

酒造好適米の高品質生産、酒造適性米・加工用米の安定供給を行い、土佐酒の販売拡大につなげ、現行で 24%程度にとどまる県産酒米の使用割合を 50%以上とすることを目標として、酒米の生産拡大と産地の活性化を図る。

### 2. 活動内容（詳細）

#### （1）土佐酒振興プラットフォームの設立

県内酒米関係者で、①酒米の高品質安定生産、②醸造技術の向上、③輸出を含む土佐酒の販路拡大にかかる協議・検討を行う場として、土佐酒振興プラットフォーム（PF）を設立した。（H28 年度～全体会年 2 回程度開催）

※構成メンバー：高知県酒造組合、JA 高知県、学識経験者、高知県中小企業団体中央会、地域商社こうち、高知県ほか

#### （2）酒造好適米、酒造適性米の高品質安定生産の支援

##### ①高品質安定生産に向けた技術の検討・普及

県内各地において、酒米実証ほを設置するとともに、各地域の農業改良普及課・所で地区別の栽培技術指導を実施した。

また、県内全域の生産者を対象とした現地検討会を開催し、各年次ごとに県内各地域の産地を巡回することで、栽培技術の高位平準化を図った。

（H28～R6 年度：実施回数延べ 26 回、参加者延べ 531 人）

##### ②酒米品質のデータ解析と生産者へのフィードバック

県内全域の酒米生産者を対象とした酒米品評会を毎年実施し、県内ほぼ全ての生産者の酒米サンプルを、試験研究機関と連携して収集・分析した。得られたデータについては、各年度の傾向を酒米品評会表彰式において報告したうえで、個別データを生産者および各指導機関へフィードバックした。（H28～R6 年度：収集サンプル数延べ 995 点）

##### ③実需者との交流の促進

県域での現地検討会および酒米品評会表彰式については、実需者（酒造メーカー、搗精業者等）・生産者ともに参加する場としており、酒米をとりまく情勢や具体的なニーズ、生産にかかる課題のタイムリーな共有を図ってきた。



県域現地検討会



酒米品評会表彰式

- (3) 早期栽培用の酒造好適米新品種「土佐麗」の生産拡大  
高知県で育成し、H31年2月に奨励品種に採用した「土佐麗（注）」の普及に向け、県内全域の酒米生産者を対象とした現地検討会を実施した。  
(H31～R6年度：実施回数延べ6回、参加者数延べ177人)  
(注) 「土佐麗」：既存品種の「風鳴子」に比べ多収で、精米時に発生する碎米が少ない特性をもつ。

### 3. 具体的な成果（詳細）

- (1) 県産酒造好適米のシェア向上：  
18.9%（H26年度）⇒ 36.3%（R6年度）
- (2) 県産酒造好適米における主要品種「吟の夢」の1等米以上比率向上：  
17.0%（H28年度）⇒ 40.6%（R6年度）
- (3) 県内酒造好適米の作付面積増加：  
34ha（H26年度）⇒ 104ha（R6年度）
- (4) 酒造好適米新品種「土佐麗」作付面積：  
0.4ha（H30年度）⇒ 22.5ha（R6年度）



図 酒造好適米の県内産シェア推移

### 4. 農家等からの評価・コメント（I町W氏）

酒米品評会では、自分の栽培した酒米が、県内全体と比べどの位置にいるのか客観的に分かるし、今後の栽培の改善に向けたヒントが得られる。実需者との交流もでき、酒米生産に向けたモチベーションにつながっている。

### 5. 普及指導員のコメント

（環境農業推進課・農業革新支援専門員・I氏）

酒米の取組については、主食用米と異なり計画生産が前提となっているため、生産者と実需者、それぞれの各関係機関の間での意思疎通が必要不可欠。

土佐酒振興プラットフォーム設立後の地道な活動を通じて、その重要性が関係者の共通認識として定着してきている。今後も、関係者同士で課題を共有しながら、酒米振興の支援を継続していく。

## 6. 現状・今後の展開等

酒造適性米および加工用米については、産地側でのメリット感が低く栽培面積が伸び悩んでいるため、収量性・酒造適性の高い有望品種の検討を継続して実施していく。